

(様式第1号)

自己評価及び外部評価結果票

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4190700163		
法人名	社会医療法人 祐愛会		
事業所名	グループホームゆうあい 3丁目		
所在地	佐賀県鹿島市大字高津原2962-1番地		
自己評価作成日	令和3年2月15日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	www.kaigokensaku.mhlw.go.jp
-------------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 佐賀県社会福祉協議会		
所在地	佐賀県佐賀市鬼丸町7番18号		
訪問調査日	令和3年3月5日	外部評価確定日	令和3年3月5日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

入居者が自由に、その人らしい生活が続けられるよう、一人一人の笑顔を大切に支援しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

事業所の特長は、介護の予防から看取りまでカバーできるビレッジの中にある事、各施設がその一翼を担いつつ、隣人同士としても協力し合っている事が挙げられる。事業所独自のこだわりでは、行事を家族と一緒に催している点である。いつもの面会より長く傍らに居ることで、利用者の普段の様子が垣間見られたり、何より、関わることで身体機能の低下を含めた現状が理解できている。看護師でもある管理者は職員への的確な指示とアドバイスをを行い、終末期を迎える家族にとっては専門知識を活かした丁寧な説明が信頼と安心感に繋がっているのが窺える。

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	玄関やリビングなどにケア理念を掲示いつでも目に入るようにしている。 地域の方との交流の面で理想に近づけていない為新型コロナウイルス感染症が終息したら実践していく。	先に開設した「ゆうあい1丁目・2丁目」の理念を踏襲している。それは10数年前、当時の職員達が大切にしている事は何かと自問し、想いを出し合ってまとめた4項目である。玄関の目に付く場所に掲示している。毎月の相談会(職員会議)では常に立ち戻る原点として話題にもしている。日々のケアの中で、利用者との会話に笑顔が見られたり、家族との交流や向き合い方には理念が浸透し、活かされているのが窺える。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	運営推進会議に地域の区長や民生委員に参加してもらっている。近隣地域のお祭り参加や地域の消防団との防災訓練での交流など行ったり、ゆうあいフェアや秋祭りなどを開始し家族や地域の方と交流する機会を設けているが、新型コロナウイルス対策のため実施できていない。	事業所がある「ゆうあいビレッジ」は高齢化社会を見据えた集合体である。広い敷地に複数の施設が建ち、介護予防から看取りまでを可能としている。地域との繋がりを保ち、基盤を築くことはビレッジとして取り組まれ、その存在は近隣住民にとって拠り所でもある。現在、未曾有のコロナ禍にあり、地域との交流や事業所が催す行事も全て自粛状態である。しかし、地域の細かい情報等はきちんともたらされている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議の中で地区の代表者については理解を求めており、認知症サポーター養成講座を開催するなどして、少しずつ地域の方に向けた活動ができていたが、新型コロナウイルス対策のため実施できていない。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	ホームでの行事や取り組みを報告し、頂いた意見を検討し実践していたが、新型コロナウイルス対策のため文章報告のみになっている。	ビレッジ内にある各事業所合同の会議である。約一時間を要し、利用者の家族にも参加をお願いしている。行政側も必ず出席者を出し、メンバー同士が顔見知りとなり、相談し合う場面も見られた。しかし、コロナ禍の現在は集合する会議を控えている。過去には、火災発生時の対応で、取水のためビレッジ脇の川を増水させる策として、区長が上流の堰を開けることが話し合われている。事業所からの報告のみに終始することなく、双方向に意見が出されている例である。	

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議開催のお知らせを直接市の職員に手渡しに行き、顔を合わせる機会を持っている。	運営推進会議のメンバーでもあり、日頃から顔なじみである。事業所は大きな法人内にあり、人材やスキルが揃っているため内部で解決できる事もあるが、相談事があれば実直に対応してもらえる関係は築いている。また、介護相談員が年に数回訪れてはいるが、ピレージ内を巡回するため滞在時間は僅かであり、橋渡し役としての効果は得られていない。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束廃止委員会へ出席し、定期的に勉強会を行い、身体拘束廃止マニュアルに沿って身体拘束ゼロに取り組んでいる。 玄関の施錠はしていない。	入居契約時に指針の説明を行っている。職員は身体拘束の内容とその弊害も理解しており、これまでにその事例もない。玄関に施錠は無く、職員は無意識のうちに人数を数えており、そのため気付きも早い。外へ向かう利用者があれば一緒に歩き、行動を抑えることもない。仮に管理者が不適切なケアに遭遇した場合、その場で職員へのアドバイスをを行い、全体の事として提起するとなっている。日常は職員の目配り等により安心して安全な暮らしが支援されている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待防止についての研修会を定期的におこない、マニュアルに沿って高齢者虐待防止に努めている。 スピーチロックゼロの取り組みを法人全体で行っている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	勉強会を実施している。必要があれば家族へ情報提供を行い活用できている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	書面に添って説明を十分に行い、疑問点を尋ね、理解を得るようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族会やサービス担当者会議などの際に、家族の意見や不満などをゆっくり聴ける機会をもうけている。玄関に意見箱を設置している。	これまでは家族の来所も多く、行事には参加を促し、4月の花見では家族会も開いていた。一緒に関わってもらうことで家族同士の交流や職員の親しみやすい姿勢も伝わっていた。現在のコロナ禍では規制される事も多いが、ケアプラン提示や訪問診療の計画書等を利用し、家族の不安や意見が汲み取れるよう努めている。また、以前から行っているホーム便り送付は、掲載される写真から利用者の日常が垣間見えるもので家族には好評である。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月、相談会を開催しており意見交換している。また、個人面談の機会を設け意見を聴いている。	毎月の相談会は30～60分程度で、休みの職員はリモート参加もある。カンファレンスや業務上の課題、行事等々が話し合われている。司会と書記は持ち回りで担当し、自由な意見交換の場である。内容を事前に周知しておくことで考える時間を持たせたり、別途、諮ってほしい案件があれば記入する用紙もある。限られた時間をスムーズに進める工夫である。管理者は現場の声を大切にしており、法人上席には聞き取る体制もある。日頃から職員とのコミュニケーションを図り、定時での終業や休暇取得はもちろんのこと、働きやすい職場であるよう努めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	働き方改革により残業を減らし有休休暇取得日数が増えている。半期毎に個人目標を設定し努力を評価し、就業内容などを総合的に評価している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	経験年数により法人内コース研修を実施したり、全職員対象の研修会を行ったり、法人外研修への参加を促し内容によっては研修費の補助を行い学習への参加を促している。		

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域のグループホーム交流会に参加し、情報交換をおこなっている。他事業所の勉強会の講師へ出向いている。		
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前より事前に訪問したり見学に来てもらうなどしたり、入居後も情報を元に深く関わり、表情などに気を配り入居者の事をより理解できるよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族の苦労や不安を十分に聞く機会をもち、気持ちに寄り添えるよう努力をしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	話す機会を十分に設け、求めに応じ安心して暮らせる事を伝え、受け止める努力をしている。必要があれば多職種への協力を依頼している。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	掃除、洗濯、調理、趣味活動など生活を共に過ごし、できるだけ寄り添えるように努力している。		

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	月々の行事予定をご案内したり日々の様子を写真と共にお伝えしたり、誕生日を一緒にお祝いしたり家族にも行事に参加してもらうなど家族とともに支援していけるようにしているが、新型コロナ感染対策のため実施できていない。面会はガラス越しやリモートなど工夫して行っている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	遠方の家族にも日々の活動の様子を写真つきで送付したり、面会に来ていただいた時はゆっくり過ごしていただくように配慮したり、積極的に訪問したり関係性が途切れないよう支援しているが、新型コロナ感染対策のため実施できていない。	入居に際して、本人や家族、また担当のケアマネージャーから話を聞き、これまでの人間関係等を把握している。利用者の殆どが法人施設からのため得やすい情報もある。それらを基に具体的な支援が生まれ提供してきたが、自己評価に記す通り、このコロナ禍では十分に応えることが出来ずにいる。職員にとってもどかしいばかりである。家族との外食や盆正月の帰宅、また法事への出席等々、当たり前に出ていた事が再開できるまで、いつでも可能な電話の取り次ぎ等で関係が途切れないよう支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	気の合う方同士同じテーブルにしたり、作業や活動をテーブルを囲んで出来るよう支援し、孤立する方がいないよう支援しているが新型コロナ感染対策のため十分な実施できていない。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	同じ敷地内の老健への入所の場合は面会に行き、積極的に訪問したりしている。必要があれば電話をしたり面会したりしている。自宅での看取りを希望された方に退居後も面会に行った。		

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	日々の生活の中での会話や行動、以前の生活歴より本人の思いを把握して、支援できるよう努力している。	利用者との接し方で心掛けている事は笑顔、目線を合わせる、スキンシップ等がある。週一回の音楽療法では、声を出し、歌い、話することで発語の少ない方にも変化が見られる。懐かしい歌をきっかけに思い出が蘇ることもある。隣に座り話し相手をしている時には想いが聞けることも多く、それらは日々の記録簿に残している。利用者の生活を支えていくための情報であり、職員間で共有している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前に一人ひとりの生活史や生活歴を作成し、家族の面会時に尋ねたり、日々の会話を行う事でその時の様子をより詳しく知るよう努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	担当者がアセスメントを行い、カンファレンスを行い、本人の状況を全体で把握できるよう努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	定期的なケアカンファレンス、担当者会議を行い、それぞれの意見をもとに介護計画を作成している。	プラン作成にあたり、本人の希望は日々のケアの中で把握し、家族の要望等は来所時や電話での会話から汲み取っている。当外部評価の家族アンケートでは「職員から分かりやすく説明を受け一緒に話し合っている」との回答が殆どであった。プラン設定期間は、入居して間もない時期は毎月とし、その後、3か月毎、6か月毎と移っていく。その間に変化があれば臨機応変な対応もある。日々の記録簿には実施状況がABCで評価され、BCの場合にはその理由が記されているため共有や対応が早い。毎月の相談会の他にもカンファレンスの時間を持ち、ケアマネージャーと担当職員によるモニタリングも行われている。	

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケアプランに基づいた日々の記録が出来ており、ケアの実践、見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	他事業所へのレクリエーション参加、出張散髪の利用、自宅への外出などをおこなっているが新型コロナ感染対策のため実施できていない。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	以前働かれていた職場に行ったり、地元の祭りに行ったり、ホームのイベントに高校生やボランティアに来てもらったりしているが新型コロナ感染対策のため実施できていない。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居前からの専門医への受診の継続や必要時は本人、家族の希望に添って適切な医療を受けられるよう配慮している。月に2回訪問診療があり、医師との情報交換はできている。	利用者全員が入居前から協力医の患者だった縁もあり、現在もそのままにかかりつけ医として診てもらっている。家族アンケートでも殆どが「健康面や医療面での心配な点は全くない」と回答し、長い付き合いで体の事を良く知る医師がかかりつけ医であることの安心感が窺える。受診に出掛ける際は事前に家族へ連絡をし、状況によって当日、または後日の結果報告を行っている。現在は歯科医の往診もあり、自分で噛んで食べる事の大切さが理解されている支援である。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護職員を常勤配置している。日常の身体的変化を相談し、看護師は主治医へと報告、相談している。		

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	医療機関との情報交換を行い、家族とも相談しながら適切な期間で退院できるように努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	本人や家族、主治医と相談しながら方針を決め、共有し支援に取り組んでいる。	入居契約時に指針の説明を行っている。その中にはターミナルケアの内容や手順、協力医療機関との連携体制などが記されている。これまでに看取りの経験があり、今後、希望があれば応えていく用意もある。管理者が看護師であることも心強く、徐々に低下していく身体状況等の細かい説明を行うこともある。容態の変化に伴い、揺れ動く家族の気持ちにも配慮し、話し合いは何度でも重ねられる。キーパーソン以外の家族へも確認をし、説明の場に医師の同席もある。職員は定期的に勉強会を開き、看取り後の振り返りカンファレンスでは課題を出し合っている。最期を迎えるにあたり「ここでよかった」と言ってもらえるケアに努めている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定期的な訓練が出来ていないため、今後勉強会の計画、実施が必要。		

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	火災訓練と水害訓練は地元消防団・消防署の協力により、定期的に行っているが新型コロナウイルス感染対策のため実施できていない。地震についても訓練が必要。	コロナ禍でなければ消防署や地元消防団の立ち会い、またビレッジ全体や事業所独自の避難訓練等が実施されていたはずである。大規模な訓練は消防関係者にとっても得難い体験となっていた。通常は利用者も避難に参加し、夜間の想定では対応を職員一名とし、実際に近い状況での手順確認を行っている。運営推進会議がきっかけとなった区長による堰の開放も連絡体制に入っており、スプリンクラーや自動火災報知器等も設置されている。非常食や水等はビレッジ全体として備蓄がある。自己評価に「地震についても訓練が必要」と記す訳は、ビレッジ敷地の上方に溜池があり、そこが決壊した場合を危惧しているからである。ビレッジ内で頑強な建物の上階が避難先として挙げられている。これまでの訓練で近隣住民の参加協力はないが、ビレッジ全体でカバーし合う体制は出来ている。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個人の人格を踏まえ、入浴や排泄の時などプライバシーに配慮して言葉かけする時は近くに行って話しかけるよう心がけている。一人一人に沿った言葉かけや援助を行っている。	自己評価に記すように、入浴や排泄の介助では細かい配慮が窺える。入居して間もない頃は出来るだけ同性があたったり、トイレのドアはきちんと閉めるのが基本だが、僅かな隙間で確認や声掛けをする場合もある。また、入居時には居室の名札表示やホーム便り等への写真掲載の承諾も得ている。個人情報の取り扱いに対する職員の意識は高い。日々のケアの中で職員同士の会話には業務内容が含まれるが、声の大きさには注意を払っている。	

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	その都度本人の思いや希望を尋ねたり、話しかけたりし本人の意思を表現できるようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その時々の様子や希望に沿ってその日その日に合わせた支援が出来るよう努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人用の化粧品を準備したり、髪染めをしたり、おしゃれしてお出かけしたり、その人らしい生活ができるよう支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	それぞれの能力に応じた準備や片付けを行ってらっている。	法人の管理栄養士が献立を作り、ビレッジ内の厨房で一括調理されたものが届いている。事業所では炊飯のみである。利用者の好き嫌いやアレルギー有無は把握されており、苦手な食材や献立には代替えもある。職員は介助のみで同席し、自分で口へ運んでもらえるような軽い食器等の工夫もある。食が細い方には必要に応じて補助食品も提供され、家族がプリン等を差し入れる場合もある。介護度が上がるにつれ準備・片付けを手伝う事は難しくなっていくが、出来る事をやろうとする利用者を見守っている。また、これまで家族にも連絡をしていた誕生日は、コロナ禍のため事業所内だけで祝っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	管理栄養士と連携を図りながら、一人ひとりの状態に合わせ食事量にこだわらず、補助食や嗜好品をあわせて提供することにより、必要なカロリーや水分量が摂取できるよう支援している。		

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	週に1回歯科衛生士が訪問される為、相談を行いながら毎食後、一人ひとりに対し言葉をかけ援助を行い、口腔ケアができるようにしている。口腔内の状態に合わせて、ブラシやスポンジ、口腔ウエットティッシュを使っている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄チェック表を使用しその人その人に合わせて支援することで、トイレで不安を与えることなく排泄でき、なるべくオムツを使用しないよう支援している。	職員の気配りもあり、排泄チェック表が効果を上げている。羞恥心に配慮しながら、さりげなく声を掛ける誘導は、日中(中には夜間も)のトイレでの排泄や、オムツ・パット類の使用枚数減に表れている。これは費用負担の軽減にも繋がっている。トイレ内は車椅子使用でも十分な広さがあり、固定や可動式の手摺りも設置され、補助具として自立を促している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便状況を毎日チェックし、一人ひとりについて対応方法が決まっている。便秘傾向の方には水分摂取や運動を促している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	希望があれば対応したり体調に合わせて入浴する日を調整したりしている。	入浴は週3回を目安にしていたが2回になっている。これもコロナ禍の対応である。拒む方には日にちをずらしたり清拭や足浴で対応し、無理強いはいしない。時間帯は午前中だが、希望があれば午後でも可能である。入浴後の衣服を選んでもらったり、脱ぎ着は出来るだけ本人に任せ見守っている。浴室内の暖房設備は冬場のヒートショック対策となり、シャワーチェア等も活用しながら安全な入浴を支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの状況に合わせて眠りたい時に安心できる場所で休息できるよう支援している。		

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	お薬ノートを活用したり、服薬管理表や熱型表、情報用紙などに記載し、一人ひとりの薬の内容を理解し、準備や介助時に日付や名前を確認し、確実に服用できるようにし、症状の変化が観察できるようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	花の手入れや家事に参加したり、趣味を活かしたり、好きなものを食べたり、天気の良い日は散歩や外出を行い楽しくすごせるように支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	敷地内を自由に散歩できたり、希望があれば家族と協力し自宅へ外出したり出来るようにしているが新型コロナウイルス感染対策のため実施できていない。	いつもなら花見やドライブで楽しんでいた季節も、現在は全て自粛である。遠出が出来ない状況でも周辺に楽しみを見つけ支援している。ビレッジ内は広く、噴水を設えた庭には木々や花があしらわれ、あちらこちらにベンチも置いてある。天候や体調をみながら外へ出て、気分転換に散歩をしたり、ベンチで日差しを浴びてみたり、今、出来ることを考え支援している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	手持ちの財布を自己管理されている方もおられるが、ほとんどの方がスタッフ管理している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	手紙や贈り物が届くとお礼の電話をかけたたり友人や家族への手紙を出せるよう支援している。		

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節の花や貼り絵を飾ったり写真を飾ったり、テレビの音やカーテンでの光の調整を行い心地よく過ごせるようにしている。	リビングは天井が高く開放感があり、一面がガラスのため明るい空間となっている。季節に合わせた貼り絵は利用者によって作られたものであり、穏やかに日中を過ごせるよう工夫している。車等の騒音は殆どなく、光はレースカーテンによって調節している。利用者の動線上に行動を妨げる物はなく、出来る限り窓を開けたままにして換気も図っている。これは居室も同様である。コロナ禍以前から手を触れる箇所の消毒はこまめに行っており、トイレや浴室もきれいに掃除され嫌な臭気はない。業者による床や窓の清掃と、週一回のペースで水回り(蛇口等)の清掃が入ることも大きな法人ならではである。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファーに座ったり、気の合う方のテーブルへ自由に移動したり、促したりして落ち着いて過ごせるよう支援している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居の際や面会時に家族と相談し、なじみの家具を配置し、写真や手紙、その方の作品などを飾り、居心地良く過ごせるよう工夫している。	火気等の危険物以外に持ち込む品物の制限はない。寝具は事業所が用意し、リネンは頻繁に交換され清潔が保たれている。乾燥対策として加湿器の備えもある。衣替え時期になると家族へ依頼し、適宜行われている。ベッドの他に整理ダンスも備えてあり、タンスの上は飾り棚になっている。家族が飾っていく物もあり、落ち着いて居心地良く過ごせるよう支援している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	手すりや介助バーを設置しており安全に移乗や移動出来るように工夫し、トイレや浴室など分かりやすく表示したり、日時や時計を見やすい所に設置することで理解し行動しやすいように支援している。		

V. サービスの成果に関する項目(目標指標項目)アウトカム項目)(事業所記入)
※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印をつけてください	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の
			2. 利用者の2/3くらいの
			3. 利用者の1/3くらいの
			4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある
			2. 数日に1回程度ある
			3. たまにある
			4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印をつけてください	
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている。 (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている。 (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 家族の2/3くらいと
			3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度ある
			3. たまに
			4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている
			2. 少しずつ増えている
			3. あまり増えていない
			4. 全くない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 職員の2/3くらいが
			3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 家族等の2/3くらいが
			3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない